

「施策」総括票

施策展開	1-(7)-ウ	人に優しい交通手段の確保	
施策	② 公共交通利用環境の改善		74頁
対応する 主な課題	<p>○沖縄本島の公共交通の骨格となったバス路線は、長大で複雑となっているため利用しづらく、交通渋滞に巻き込まれ定時・定速性が低いため、バス離れが著しく公共交通の確保・維持が大きな課題となっている。</p> <p>○沖縄都市モノレールの沖縄自動車道(西原入口)までの早期延長整備を図り、効果的・広域的な利用を推進し、定時定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークを形成することにより、那覇都市圏の交通渋滞緩和を図るとともに、総合的な公共交通体系の視点を踏まえた陸上交通の円滑化を促進する必要がある。</p> <p>○那覇都市圏の交通渋滞は、三大都市圏に匹敵する状況であることから、県民及び観光客の移動利便性向上を図り、モノレールの需要を喚起し、自動車から公共交通への転換を促進させる必要がある。</p>		
関係部等	企画部、土木建築部		

I 主な取組の推進状況 (Plan・Do)

(単位:千円)

平成24年度				
	主な取組	決算見込額	推進状況	活動概要
○沖縄都市モノレール利用環境の整備				
1	沖縄都市モノレール延長整備事業	651,029	順調	○終着駅と沖縄自動車道を結節するインターチェンジの形状及びルート案を検討するとともに、NEXCOなどの関係機関と連結許可申請に向けた協議等を行った。(1)
2	パークアンドライド駐車場の整備(第4駅周辺等)	0	やや遅れ	○第4駅パークアンドライド駐車場基本計画検討業務に着手したが、関係市町との協議に時間を要したため、年度内に完了できず、平成25年度に繰り越した。(2)
3	モノレール利用促進対策	14,678	順調	○駅周辺ガイドブック、モノレール利用客需要喚起アクションプログラムの作成及び駅周辺案内サインの更新を実施した。(3)

様式2(施策)

○バス利用環境の整備					
4	公共交通利用環境改善事業		807,924	順調	○ノンステップバスの導入支援及び携帯端末などで路線バスの位置を確認できるバスロケーションシステム等の導入を行った。(4)
5	交通体系整備推進事業		29,078	順調	○公共交通利用促進のための広報・啓発活動を行った。(5)

II 成果指標の達成状況 (Do)

(1) 成果指標

1	成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
	乗合バス利用者数		80,745人/日 (18年度)	74,390人/日 (23年度)	104,945人/日	—	11,250,557人/日 (23年度)
状況説明	現状値は、21世紀ビジョン実施計画策定前の23年度の数値であり、現時点では取組の効果は把握できていないが、乗降性の優れたノンステップバスやバスロケーションシステムの導入による待ち時間の短縮等、バス利用環境が改善された。また、IC乗車券システムの導入やバスの利用環境改善を広く県民に広報し、バスが変わったことを訴えることにより、バス利用者数の増加が期待される。						
2	成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
	モノレールの乗客数		35,551人/日 (22年度)	39,093人/日 (24年度)	40,542人/日 (30年度)	3,542人/日	—
状況説明	観光客のモノレール利用者の増加やモノレール沿線での都市開発及び施設整備により、モノレール乗客数が増加している。延長整備後は公共交通ネットワークの拡大に伴い移動利便性が向上するとともに、更なる沿線まちづくりの促進等が期待される。						

(2) 参考データ

参考データ名	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

Ⅲ 内部要因の分析 (Check)

○沖縄都市モノレール利用環境の整備

・西原入口までの延長区間を平成31年春に開業するためには、平成26年度までの3年間でモノレールインフラ整備に係る全ての用地を取得する必要があるため、用地取得体制を強化する必要がある。
・沖縄自動車道と接続する第4駅周辺は、インターチェンジやアクセス道路の整備、パークアンドライド駐車場の整備のほかに、モノレールの延長整備、県道の橋梁化や浦添市の第4駅周辺まちづくりなど多数の事業が集中している。これらが相互に支障を来さず事業を円滑に進めるためには、各事業の工程計画等を事業者間で共有する必要がある。

○バス利用環境の整備

・公共交通利用促進のため、バス利用環境改善の取組を紹介する広報活動を平成24年12月から実施した。今後はより効果を高めるため内容を充実させるとともに、実施期間を拡充する必要がある。

Ⅳ 外部環境の分析 (Check)

○沖縄都市モノレール利用環境の整備

・沖縄の交通事情は自動車利用が基本で、公共交通利用者が少ない。モノレール乗客数の計画目標を達成するため、モノレールのサービス向上や県民及び観光客にモノレールを充分に知ってもらうための取組を関係機関(那覇市、浦添市、モノレール社等)と連携し実施する必要がある。

○バス利用環境の整備

・公共交通利用環境改善事業については、毎年度43台のノンステップバスを導入予定であったが、バス事業者が自己負担額及び既存車両の損耗等を考慮のうえ、車両更新計画を見直し、導入台数を40台に変更したことから、県の導入計画もあわせて変更する必要がある。

Ⅴ 施策の推進戦略案 (Action)

○沖縄都市モノレール利用環境の整備

・用地取得体制を強化するとともに、予算の平準化を考慮した計画的な用地取得を図る。
・沖縄自動車道と結節する第4駅周辺の各整備事業を円滑に実施するため、県、地元市町、関係団体及び事業者との間で、調整会議等を開催する。
・モノレールのサービス等の向上による県民及び観光客の利用促進を図るため、関係機関が連携してモノレール需要喚起アクションプログラムに挙げた施策に取り組む。

○バス利用環境の整備

・平成25年度の広報活動では、ノンステップバスやバスロケーションシステムの導入等、バスの利用環境の改善が図られていることを周知し、自動車から路線バスへの利用転換を促す。また、広報内容の充実はもちろん、平成25年度に予定しているバスレーンの延長時期に合わせた集中的な広報の実施や対象の絞込等により、費用対効果の高い広報を行う。
・ノンステップバス導入については、県の導入計画をバス事業者の車両更新計画にあわせて変更し、目標達成に向け着実に推進していく。また、今後、IC乗車券システムの導入や、バスレーンの延長、バス停上屋の整備等により、バス事業者とともにバス利用環境を整備し、乗合バス利用者の増加に努める。